

令和6年度 第1回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の

概要

○日 時 令和6年6月19日（水）午後3時00分～5時00分

○場 所 能代山本広域交流センター第1研修室

○案 件 人口ビジョン改訂及び次期総合戦略の策定について

（1）アンケート調査の結果について

（2）人口の現状分析について

（3）策定スケジュールについて

○意見交換 能代市の人口減少と現状の問題について

○内 容 3グループに分かれ意見交換 45分

休憩 5分

グループごとのまとめ発表 別紙

委員長、副委員長から補足や感想等

＜総合戦略会議での意見交換の概要＞

1 しごと（雇用・労働環境、地域経済）

（1）雇用・労働環境

- ・昔より地元の商店や企業に勤めている人が少なくなって、本社が能代市でないところに勤める人が多くなってきたと感じている。それでも二ツ井地域に住んでいる方々なので、愛郷心を育てることが引き留めている要素となっているのではないか。
- ・地元では介護施設や工業団地の大手企業で働くといいという風潮もある。
- ・物価も上昇しており、賃金上げしないと採用できない状況が続いている。
- ・自分たちの会社をどうやって高校生にアピールするのか。経営者は自社をアピールしてもなかなか入社を希望する人がこないため、アピールを諦めている人がいる。そのため、経営者を奮起させるために能代市で施策等を行うことはできないか。その人達が諦めることでどうしても人口が自然に減ってしまうのではないか。
- ・なんでも今はハラスメントになるため、職場では飲み会などにも誘いづらい。
- ・知り合いの移住者が、能代市の職場に就職した際に人間関係や雰囲気に関心があると話していた。
- ・子育てが始まってから働く場所が少ない。子どもができてからの働きについて今後考えなければいけない。
- ・面接で、子育てしているので時々休まないといけないと伝えると採用されず、10数社面接しても採用されていないという例を聞いた。
- ・県でも女性の活躍を重視しており、働き方の改革が大事。
- ・20歳代と30歳以上で労働環境に関するアンケート結果に差が出ていたが、若い人が入ってくると最初は同じ年代の人が仕事を教える。経験を積んだころ、ベテランの社員と仕事をすることになり、ベテラン社員が新しい感性に対応できないなど、若い人の意見が反映されにくい状況もあるようだ。
- ・求人票ではどうしても、給与や休日など目に見える数値の部分で判断されてしまう。福利厚生や、組合制度、組合がないにしても上層部と話し合って改善していけるという会社だというPRなど、目に見えにくいところも重要。高校生は地域に貢献したい＝公務員と考えがちだが、他の業種も地域に貢献している。なかなか伝わりづらい。

(2) 産業振興・地域経済

- ・働く場所への意見として大きく抱えている問題が3つある。(林業)
 - ①昭和30年代に植えた木が今育っていて、極端に言うと木が余っている。
木の販売販路と需要の拡大が必要である。
 - ②山で働く人がいない。日本の木が安いことが原因か。
 - ③造林が大事なのに、切った後、植えていない状況が続いたためか。
※カーボンニュートラルとして若い人に関心を持ってもらいたい。
- ・農業に魅力を感じる施策が有効ではないか。
- ・本気で農業に取り組む若い人が増えているように感じる。二ツ井地域ではおむすび権兵衛と提携して何万トンも出荷している。ディズニーランドで自分の作ったお米が提供され嬉しく誇らしい気持ちからくと思われ、モチベーションに繋がっている。
- ・林業、農業、それらに関係する運搬の業種がこれから活性化するのではないかと経営者の集まりで話すことがある。
- ・観光としての自然ではなく、農業林業に繋がる自然を大事にしたらいいのでは。観光産業ではなく、産業観光として能代市の産業を見せる観光として売り出していくことが有効と考える。
- ・交通の話で言うと、夜のタクシーや代行がない。外から仕事などで来ている人もいるが、街での飲食の機会、消費の機会を逃していると思う。宿泊施設も不足で同様。
- ・水素ラボの取組を利用し、実験施設などの誘致や教育へ繋げることはできないか。
 - 今後、秋田大学と早稲田大学との連携がある。子どもたちにも広く周知し、将来水素に関わる企業の誘致などに繋がることを期待したい。(事務局)

2 人の流れ（移住・定住）

- ・高校卒業後、憧れから一旦県外に出る人は多いと思う。小学校、中学校から愛郷心を育てる教育をしたら戻ってくる人も多いのではないか。
- ・能代市から出ても良いが、Uターンをする人も増やさなければいけない。
- ・Uターンしたくなるように、故郷の良さを伝えることが大事であり、その良さを伝えることが地域住民の仕事だと思う。子どもの時から街で色々な経験を充実させるために、各地域での活動を活発にし、子供たちを街みinnで見守っていくことが大事。
- ・自分も一度進学で県外へ出たが、地元がよいと思って戻ってきた。周りにもそういう人は一定数いる。
- ・自分も県外で一度出て戻ってきたが、外に出て秋田の良さがわかる。若い人たちは出て行ってもいいから、いずれ戻ってきてほしい。高校生アンケートで「地元に貢献したい」という意見が多いのはとてもよい傾向だと思う。
- ・移住支援の認知度が低いことが気になった。低い中でも女性のほうが認知度はあるようだ。男性も含めてもう少し広まるとよい。
- ・民間のとあるランキングでは、住みたい県で秋田県が9位に入っていた。ランキングもさまざまあるが、捨てたものではないと思う。県としても人口減少対策は最重要課題。真剣にやっていないといけない。
- ・秋田市からも通える能代市。逆に言うと秋田市にも通えることで、秋田市に人口が吸い取られるのではないか。高校進学も、秋田市に通う生徒が「秋田市便利だな」と実感すると、（能代市に住まないで）秋田市から通う人も増えるのでは。
- ・そういった秋田市へ吸い取られる状況から、能代に住んでほしいと思ってもらえるのは産業だけの話ではないと考える。

3 結婚・出産・子育て

(1) 結婚

- ・結婚を考えていない人が多く、その理由として賃金のことについて回答している人がいて難しい問題だと感じた。
- ・生活や金銭的に昔より豊かになったのが逆に今の社会へ影響しているのではないか。
- ・今の時代は成熟社会であるため、結婚等をしない人が増えている可能性がある。

成熟社会・・・多様な価値観を認め、自ら生き方を選び取り、誰もがかけがえのない人として成長できる社会

- ・アンケート結果から結婚をしたくないと考えている人がいることがわかったが、その対策として、子供が小さい時から結婚に対して勧めるように指導するのはどうか。
- ・今は、ひとり親も多いため、結婚を勧めるのは難しいのではないか。

→ 結婚をするかどうかは個人の自由であり、行政としてできることは、結婚したいと思える環境づくりと、結婚を希望する人を支援すること。(事務局)

- ・アンケート結果から高校生が、「結婚したくない」というのが思っていたよりも多く驚いたが、自分の娘も結婚をしていなくて、理由は一人が楽だからと言っていた。
- ・周りの独身者に結婚について尋ねる機会があるが、アンケートと同様に経済的なことを理由にする人、一人が楽という人、結婚による家族関係が煩わしいと言っていた人もいる。

(2) 出産・子育て

- ・安心・安全な子育て環境をつくることが大事。
- ・病児保育も流行性の場合は、預けたい時期が重なってしまい、なかなか預けられないというイメージがある。
- ・自分も移住してきて、現在子育て中。能代市は生後2カ月から預かってくれて、産後の復帰が早いことに驚いた。以前の地域では生後6カ月からだった。子育て支援としては良いとも思うし、親子で過ごす時間が短くなるとも思う。生後2カ月で預けて、働きたい、働かなければいけない状況があるのだと思う。
- ・あまり長く休むと給料に響くので、しっかり休むというよりは短時間勤務を希望する割合が多いようだ。
- ・雇用形態次第では、休むなら契約打ち切りということもあると聞く。能代市はパート女性が多いことや早く預けられるということもその辺が関係しているのでは。これから法整備はさらに進むと思うが、現実問題、会社の規模によってはすぐには難しいのではないか。

4 地域づくり（安心・安全・生活環境・にぎわい）

- ・現代では、女性の社会への参加が大事になってきている。
- ・別の会議で若い人が参加して意見をたくさん述べていたが、急に来なくなり理由を聞くと「自分の意見が通らないから意味がない。」と言われた。大人になると新しい意見が反映しづらいため、できるかできないかに関わらずやってみることが大事なのではないかな。
- ・戻ってきたいと思われる地域資源やイベントを経て愛郷心を育てている。そういうイベント後のアンケートには「祭りのときは帰ってくる」という意見があるため、祭りを利用するのも有効と考える。
- ・二ツ井地域では、夏の地域のイベントを復活させ、子どもころからの地域に対するプラスのイメージ、郷土愛が大事ではないかと考えている。
- ・私も移住者だが、能代市で交通を不便と感じたことがない。でも、アンケート結果から不便と感じている人は何が不便なのかを知りたい。
- ・誰もが住みやすい、働きやすい条件があつてこそ、能代市に住みたい、働きたいと思う。
- ・出身者の方の満足度が低いというのを知って意外だと思った。必ずしも良さを感じて残っている訳ではないことを知った。
- ・自分は県外から移住してきた立場で、仕事のために来たが、同じように夫の仕事の都合で受動的に来た女性も多いのではないかな。そういった人も、ここで暮らして良かったと思える仕組みがあれば。
- ・アンケート結果から地域に残ると回答した子が地域に貢献したいからというのに感心した。これも地域と触れ合う活動が少しずつ増えてきているのが理由なのか。
- ・税金を安くする等、思い切ったことも必要でないかな。
 - 税金は地方税法に基づいているため難しいが、使用料など市の工夫で安くすることも考えられる。（事務局）
- ・秋田県は自殺率が全国でワースト上位であるが、人口減少を語るうえで、無視してはいけないのではないかな。
- ・地域活動の充実について、「普通」と答えた方があまりにも多い。内容が可もなく不可もなく普通と取った人もいれば、何もしていない、関わっていないので、良いとも悪いとも言えず普通を選んだ人もいるかもしれない。様々な捉え方があるので、これをもって何か対策を、というのは難しいのでは。